

## 1. 日本の結核の現状について

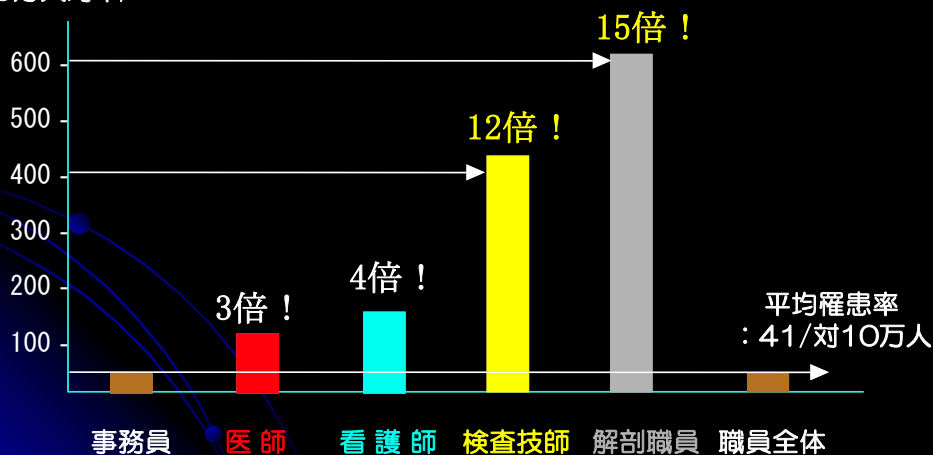
主要先進国（G8）における新規結核罹患率は、日本が第1位と最悪な状態が継続しています。また、結核の集団感染場所は主に病院、事業所、学校です。さらに、医療関連者の結核罹患率は、図1に示すように一般国民に比し医師・看護師が3～4倍、検査技師が12倍、解剖職員が15倍と報告（1987年）されています。このため感染性の強い病原体を大量に扱う微生物検査室に限らず、図2に示すように感染リスクの高い腎透析室、内視鏡室、解剖室、待合室など空調管理を徹底すべき箇所に設備基準と管理機構を設けトータルに病院のバイオセーフティ対策を講ずることが検査室の設備基準の向上にも繋がります。

### 図1. 職種別結核罹患率

日本結核療法研究協議会 1987.

病院は危険な職場であるという認識が不足しています！

(10万人対率)



### 図2. 病院における結核罹患場所

1. 待合室・外来診察室
2. 一般病棟、特に内科呼吸器病棟
3. ファイバー検査室
4. ファイバー洗浄・消毒室
5. 血液透析機室
6. 微生物検査室
7. 解剖室

